

27年度は婚活の推進など荒木会長に聞く

27年度総会をまさに控えて、26年度を振り返っての感想と今年度(27年度)に向けた思いをお聞きしました。(編集委員長)



【26年度の総括】

- Q** 年度末でお忙しいところですが、会長は今年度1年どんなお気持ちでコミわかを運営されてこられたのでしょうか。
- A** 「コミわかを情のある温かな気持ちで運営し、楽しく味のある一年に」こんなことをいつも頭の片隅におき運営してきたつもりです。
- Q** 取り組んできた主な施策はどんなものがあげられますか。
- A** 歴代の会長や役員さんの思いを尊重しながらも、事業計画を常に新しい視点で見つめ直し、過去にこだわることなく、そしてできる限り簡素化効率化を図るよう運営していくよう心がけました。実行できたかははなはだ疑問ですが…。
- Q** それが事業評価のシステムですね。
- A** そうです、25年度から始めた、事業評価システムを徹底することです。これを実施することで、事業の本筋が見え、投資対効果の分析、無理無駄の排除につながり、事業が年々良くなっていくものと思っています。
- Q** 同感です。目に見える成果はありましたか。
- A** 区長部と自然環境部の事業評価によって、事業仕分けが行われ、自然環境部の環境部会と自然活用部会の統合につながったと思っています。
- Q** 検討委員会の答申が出た市立若槻公民館の指定管理者の問題はどんな状況になっていますか。
- A** 検討委員会で指定管理受託の方針が示されたことは一步前進となりました。仕上げは27年度になります。受託に向けての諸環境整備、それに合せて教育文化部、特に公民館部会の改革を断行する必要がありますね。
- Q** まちづくり計画地域振興分野の具体的な検討状況はどうなりましたか。
- A** 24年度にスタートしたまちづくり計画ですが、地域振興分野についてはテーマが大きすぎて結論を出すには非常に難しいものが多く苦労しました。今年度中に一定の方向付けをして一段落させるつもりです。
- Q** 具体的にはどんな形になりますか。
- A** 各プロジェクトの報告を整理し、方向付けをしました。この中で「生き生き若槻みんなでトーク」で市長にぶつけた問題(コミュニティーセンターの増築、農業振興問題、交通対策)に対する、市の回答は一見前向きのように見えますが、具体性に欠ける点が多いため今後市へ積極的に陳情、働き掛けをする必要があります。しかし、いきいき交付金の増額要求については27年度からの増額が実現したので一步前進かなと思っています。

【平成27年度に向けた7つのテーマ】

- Q** それでは新たに27年度に向けての思いをお話しください。
- A** まずやらなければならないのは先ほどもお話しした、市立若槻公民館指定管理者受託に向けた準備と体制作りですね。あとは、後任の会長さんにもお願いしていこうと思っていますが、おおよそ次のようなことを考えています。
- 一つ目は婚活の推進です。少子化対策、地域の跡取り作りに立ち向うことは喫緊の課題です。行政だけに任せておく問題ではないと思っています。福祉部会を中心に専門のチームを編成して取り組んでもらうことにしています。
- 二つ目はコミュニティーセンター増築です。かたくなな市側の姿勢を突き崩すためには議員さんのお力もお借りして住民一丸で、できることを必死にやるしか実現しない問題だと思っています。
- 三つ目は「若槻公民館フェスタ」(仮称)の立ち上げを検討しています。公民館を取り巻く地区内の発表団体・グループの連絡会とコミわか、市立公民館が一緒になって、地域の文化発展に寄与できる地区住民のお祭りにしていきたいと思っています。
- 四つ目は、農業振興のための住民参加のプロジェクトです。このプロジェクトでは、非農家の方も入っていただいている。「りんご祭り」「楽農ボランティア」「露地販売」などのアイデアで、面白いことを考えているようです。単なる農家の応援でなく、まちづくりそのものだと思っています。予算もシッカリ付けて頑張ってもらおうと思っています。期待していてください。
- 五つ目は、コミわか広報のあり方です。もっともっと一般住民に、コミわかが必要不可欠な組織であることを知ってもらい、認知してもらえるよう働きかけを強化する必要がありますね。広報誌だけの問題ではありません。広報委員長もその点シッカリお願いします。
- 広報委員長: 解りました。